

明治維新时期におけるフランスからの男子服意匠の導入の歴史

— パリAICP校の資料のデータベース化と解析 —

The Introductory History of Men's Clothes Design from France in the Meiji Restoration

—Database Construction and Analysis of the Materials of AICP in Paris—

中村 茂^{*1+}、徳山 孝子^{*1+}、笹崎 綾野^{*1+}、藤田 恵子^{*2+}、森田 登代子^{*3+}

Shigeru Nakamura^{*1+}, Takako Tokuyama^{*1+}, Ayano Sasazaki^{*1+}, Keiko Fujita^{*2+} and Toyoko Morita^{*3+}

*1 神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 神戸市灘区篠原伯母野山町 1-2-1

Faculty of Human Science, Kobe Shoin Women's University

1-2-1 Shinoharaobanoyama, Nada-ku, Kobe, Japan

*2 東京家政学院大学 現代生活学部

Faculty of Modern Human Life, Tokyo Kasei Gakuin University

*3 桃山学院大学 国際教養学部

Faculty of International Studies and Liberal Arts, St. Andrew's University

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化学園大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Cultures,

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Gakuen University

Abstract : This research aims to investigate the introductory history of men's clothes design from France in the Meiji Restoration. Académie Internationale de Coupe de Paris has the historical materials that shows design of Emperor Meiji's military uniform was introduced from the academy.

Current fiscal year,

we took some photographs of those materials and collected some domestic materials relating Emperor Meiji's military uniform.

はじめに

本研究は我が国の洋装文化形成の最初期において、礼服・軍服などの男子服意匠の導入に大きな影響を与えた幕末から維新时期にかけての日仏間の交流の実態と意義を明らかにすることを目的とする。そのため、明治以前の歴史と伝統をもつパリの服飾専門学校、AICP校*に現存する日本由来の注文書や絵型などの未公開・未整理の一次資料をデータベース化し解析することを前提に、両国関係者によるコミュニケーションの具体的経緯と男子服意匠の導入経過の解明を目指している。

* Académie Internationale de Coupe de Paris

方法

本年度はAICP校における資料公開の承諾が遅れたため、当面は同時期の洋装化に関連した日仏関係者の国内における動向を具体的に解明できる資料の発掘を重点的に進め、AICP校に送られた文書

*1) s-naka@shoin.ac.jp

の写し、あるいは同校から送られた資料の存在を検証することとした。

そして、順次拡張していく同時期の「洋装化」の対象を限定するため、特に男子服意匠におけるその具体的・象徴的事例として、

- 1) 写真が現存する幕府最後の 15 代将軍徳川慶喜の洋装姿
(ナポレオンⅢ世から贈呈されたものとされる)
- 2) 国民にその服装を通じて新時代を印象づけた明治天皇の御服
(AICP 校に関連する意匠の絵型が現存する)

を採り上げ、その歴史的経緯とそこに関わった日仏関係者の具体的動向および、その意匠や被服構成、制作技術の導入において、仏側の原型からどのように日本化が図られたかの実態を分析する。

23 年度の経過報告

1. 文献・資料調査

2012 年 2 月 5 日、明治神宮において、学芸員より明治 6 年の明治天皇御料(御正服、御肩章、御正帽)が保存されていることを確認した[1]。宝物殿では明治天皇御料(御フロックコート)の実物を閲覧し、「フロックコートは私的に着用し、通常の政務の際は軍服を着用された。フロックコートは最初(明治 10 年頃)政府高官の通常礼服として用いられたが、明治の中期以降は広く一般に普及した」との説明を確認した。

靖国偕行文庫では、軍装の文献[2]を参照しながら、フランス皇帝ナポレオン三世より徳川慶喜に贈られ、慶喜から榎本武揚に下げ渡されたフロックコートが保管されていることがわかった[3]。

2. 文化学園服飾博物館の資料撮影

同館に収蔵されている明治天皇上着用(着用)のフロックコート、文官大礼服、軍服などの数点について、フランスからの意匠、製作技法への影響を検証するための資料として撮影を行った。

3. AICP 校における調査

2012 年 2 月 17 日に AICP 校を訪問し、提示された明治期の日本関係の資料を閲覧し、一部を撮影し、ヴォークレール校長と吉田マネージャーに関連する質疑を行った。資料は絵型や写真、注文書、手紙、新聞の切り抜きなどから、ボタン、服の試作部分など多様で、年代・用途・関係者の特定は今後の課題であるが、明治期の男子服意匠に関わる日仏の交流を示す歴史資料であることは確認できた。その一部は下図の通り。さらに未整理の資料が多数残されている可能性が高いので、次回の訪問を計画することとした。



図1 桐の装飾図案



図2 明治天皇の軍服の絵型

文献

1. 明治神宮: 図録「五箇條の御誓文発布百三十年記念展明治天皇の御肖像」、(1998)
2. 太田臨一郎: 『日本の軍服』、株式会社図書刊行会、(1980)
3. やすくにの祈り編集委員会: 図録「御創立 130 年記念やすくにの祈り」、産経新聞社、(2000)